

2017年
10月号

カトリック笹丘教会 教会ニュース

福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標・・・「いつくしみから踏み出す第一歩」 No. 0062
小教区今年度のテーマ・・・「やってみよう 私にできることを」

教会メンテナンスについて



主任司祭 遠山満

先日の拡大信者会で、教会のメンテナンスについて、少し話し合う機会を頂きました。教会の施工を行ったゼネコンのメンテナンス部門が、長期に亘るメンテナンス計画書を作成してくれましたので、その計画書に基づきながら、しばしの間、話し合いの時を持つことができた事を神様に感謝しております。話し合いの中で出てきたことは、マンションのメンテナンスなどが為される時、繰り返し話し合いの場が持たれること、また、もし、メンテナンスの必要性が絶対あるのならば、そのことを共同体全員に訴えて、理解を得るべきであること等の意見が出されました。

会議の後で、この話し合いの内容を思い巡らしておりました時、私の頭に浮かんできたことは、次のことです。第一に、教会の建物は、マンションと比較することはできないのではないかと言うことです。マンションは業者によって建てられ、業者の管理下にあり、住人が住むために購入します。一方教会は、只の建物というより、私達小教区共同体を通して生まれた子供のようなものと言えるのではないのでしょうか。メンテナンスは、その子供を世話することです。子供を世話しないことは、最近、ネグレクトなどと言われており、非常に問題になっていることです。そのように考えてみれば、メンテナンスをしないという選択肢は、私達の共同体にはないはずですが、ただ、メンテナンスの仕方を、どのようにするかは、共同体全体で考えていくべきことです。教会のどこかが悪くなった時、その時にその時にメンテナンスのことを考えるのか、あるいは、前もって、その為に備えておくのかということです。前者を選択すると、私達の後の世代がメンテナンスに奔走することになることでしょうか。後者を選択すれば、私達の後の世代には余り負担をかけないかもしれません。その代わり、私達自身が、十字架をもう少し背負い続けることを覚悟しなければなりません。いずれを選択しても、十字架の道ですが、この十字架の先に復活があることを、共同体全員で確認しながら、前進することができたかと思っております。

今回、施工業者のメンテナンス部門は、私達が将来のことを見通しながら、メンテナンスに取り組むことができるよう、計画書を作成してくれました。その事に、何よりも感謝したいと思います。

カトリック笹丘教会 拡大信者会 議事録

日時 : 平成29年10月1日(日) 11:30~13:00

場所 : カトリック笹丘教会 信徒会館 ホール

†初めの祈り・・・アベ・マリアの祈り

議題

1. 小教区巡礼について

日時 : 10月21日(土)、現地集合・解散

場所 : 旧鹿児島ザビエル聖堂(「宗像黙想の家」敷地内)

内容 : ミサ 12:00 or 13:00 or 14:00(※ミサ後の予定を確認して決める)

ミサ後、十字架の道行(希望者)

2. 神学院祭について

日時 : 11月3日(金・祝) ※笹丘は近いので、たくさん来てほしい。

出店 : カレー 300円×150食

(※前日に作ります。お手伝いできる方よろしく願います。) 綿菓子 50円

3. 教会の中長期保全費用計画について(*業者作成の30年間の計画表を参考に)

教会建設借入金完済も間近となったので、保全のための修繕時期や修繕箇所、修繕積立の資金計画などを検討するメンテナンス委員会を立ち上げ、委員を募集する。

(出された主な意見)

- ・借入金完済で終わりではなく、維持管理のための積立も必要であることを理解してもらう。
- ・年代を幅広く、教会の将来に関わることなので、若い人にも入ってほしい。
- ・専門的な人に入ってほしいが、コンサルタント的な立場でやってもらいたい。
- ・委員の人数は、あまり多くない方が望ましい。信仰共同体なのだから、任せてほしい。
- ・将来、子どもたちや若い人に関わることなので、発信の仕方が大切。
- ・積み立ての必要性を周知徹底し、意識を持ってもらうため、広く知らせることも大切。
- ・借入金完済後、皆で「万歳」をして、間をおかずに維持管理費積み立てに移行する。
- ・詳細については、今後も継続して検討の予定。

4. その他

- ・「教区の日(11月23日)」ミサにて、教区年間目標についての結果を奉納する予定。
- ・小教区の目標を振り返り、来月発表の準備のこと。

†終わりの祈り・・・アベ・マリアの祈り



敬老会 ・ ヒルデン神父様誕生会 2017. 9. 24(日)

笹丘教会の75歳以上は76名です。今年の参加者は26名でした。ヒルデン神父様の実際のお誕生日は9月29日ですが、敬老祝賀会と同時にお祝いしました。



おしゃれに盛り付けられた会席膳
心温まる注目を浴び



おめでとうございます!

ヒルデン神父様のお誕生会
またまた
敬老会には呼ばれませんよ



お名前と健康の秘訣は?



神父様お誕 日おめでとう

川上さんのハーモニカ健在です!!



敬老祝賀会
感謝の言葉を
お誕生おめでとう

熱演! 見とれましたね



顔と感謝の日々を
お誕生おめでとう

1~5までの数字 皆の前で提示された数字は?
ビックリ!! 3回試して3回とも当てました!

即座に霊能者を生み出しました



記念撮影



秋の巡礼



10月21日(土)

「宗像黙想の家」

に行きましょう

ごミサの前後は ご自由に 広い敷地の散策、
ルルドでロザリオ、十字架の道行きをどうぞ

12時から みんなで
ザビエル聖堂でごミサ



現地集合・現地解散

信仰のルーツ コーナー



あの人のようになりたいくて・・・

「あの人のようになりたいくて、あの人の後についていったら、あの人の前にはイエス・キリストがいた。」

幼児洗礼で祖父母の先祖とともに長崎の隠れキリシタン?。祖父母と両親、そして兄弟9人の三世同居の13人家族という大所帯の熱心な信者の家庭に育った。四季を問わず、平日も朝ミサの侍者当番の日には否応なしに起こされ、眠い目を擦りながら教会へ向かった。と言っても教会は歩いて二、三分。すぐそこだ。祖父達が心血を注いで戦後間もなく建てた教会だ。夕方のお告げの鐘撞も兄から継いだ。信者であることは当たり前のことだった。朝ミサに行くと近所のおばさん達から「ボクは感心かね」と褒められ、悪い気はしなかった。ボクとは当時の私のあだ名だ。一見真面目な信者を演じていたのかもしれない。

しかし、転機が訪れた。一見真面目な信者が、本当にキリストに魅せられた信者になった出来事があった。私が高校生の時、それはカトリック青年活動に熱心な兄の姿の中にあつた。何があれ程までに兄をかき立てるのか。答を見つけるのに時間はあまりかからなかった。それは兄が青年の仲間達と企画した「ジャンボリー」青年キャンプに参加した時だった。当初は参加にあまり気乗りしなかったが、兄のたつての勧めで参加した。残念ながら50年近く昔のことなのでプログラムの内容は覚えていないが、それでもはっきり覚えているのは、キャンプの最後に涙ながらに兄と交わした握手。確かにそこにはキリストがいた。これだ。兄はキリストに魅せられていたのだ。

そしてそれと同じような光景が、それから30数年後、第一回目のFYCCの最後のミサの場面に再現された。握手を交わした二人のうちの一人はもちろん私、そしてその相手はFYCCの最初のリーダーだった、私の次男。苦勞して立ち上げたFYCC。その苦勞をつぶさに見て知っていただけに、親子で感動の涙を流した。キリストへの感謝を共有できた瞬間だった。確かに傍らにキリストがいた。そして、ここにもキリストの虜になった若者がいた。

遡ること37年、結婚相手も私と同じ幼児洗礼の女性を青年活動の中で神様が準備してくださった。それからは転勤族ながら、転勤先では隠れキリシタンにはなれなくて、いつも教会と一緒に。そしてその転勤がこてこての長崎信者をうまくいい方に変えてくれた。じっとしておれなくて、どこの教会でも「私たちにできることがあれば」と、夫婦二人三脚で歩いてきている。最近では夫婦と言うより、教会活動の同志のようにさえ思えることもある。しかし、神様はよくもまあこんなに何の取り柄もない私、私たちを見捨てずに、飽きもせずお使いなる。まあ、仕方がないか、神様自らこの私をお造りになったのだから。せめて私を造ったことを後悔だけはさせないように、もうひと頑張りと思う今日この頃である。感謝と賛美のうちに。(川原義広)

編集後記

受洗して15年が経ちました。当初はミサをサボったり、信仰を早まった～とか。しかし、驚くほど神様は自分を導いてくださっていることを今、実感しています。最近そのお導きが強烈過ぎて、体重が数日で2キロも減るなど身体に堪える程の重たい課題でした。しかし、この課題で得られたものが信仰として最も重要な点であること。ここまでしないとあなたは動かないでしょ！と言わんばかりの勢いです。本当にそうです。今までの信仰の歩みだったら、死ぬまで間に合わなかったことでしょう。課題の解決にはまだまだ時間がかかりそうですが、お陰でたくさんの仲間を得て、一緒に心を痛めてくれたりで感謝に絶えません。ここで聖句が見つければよいのですが・・・思い浮かびません。ちなみに体重は数日ですぐに戻りました。神に感謝 (J.N)